

夏の京都旅行はいかが？

## 人 物

篠崎みどり（27）東京のOL

箕輪さくら（27）大学時代の親友

黒沼雄平（56）長谷寺の住職

落ち武者（26）幽霊

ホテルマン

○京都・長谷寺・外観

テロップ 長谷寺。朱色に塗られた寺。

○京都・長谷寺・中

各所に見事な彫刻が施されている。

篠崎みどり（27）と箕輪さくら（2

7）が寺の内部に見とれている。みどりとさくら、よく似た背格好。

さくら「わぁー、すごいよ、みどり、この装飾見てよ」

みどり「本当だ！素敵ね！さすが国宝だけあるわ！あっ、さくら、奥も見てみようよ」

みどり、さくら、本堂の裏にある、薄暗い通路に入っていく。

みどり、さくらの袖を掴んで、みどり「なんだか怖いわね」

突如、みどりとさくらの前に黒沼雄平（56）が現れる。

みどり、さくら、悲鳴を上げる。

黒沼「驚かせてすみません」

みどり「あなたは？」

黒沼「私は、この寺の住職です。せっくな  
んで、ご説明させていただこうかと・・・」

みどり「なーんだ」

さくら「ぜひ、お願いします！」

みどり、さくら、嬉しそう。

黒沼「このお寺は、1654年に、長谷部憲  
明が建てたお寺です。こちらの通路は、関  
ヶ原の陣の時に、長谷部輝明が身を隠した  
と言われおります」

みどり、さくら、感心したように、

さくら「そうなんだー」

みどり、心配気に、

みどり「それでどうなったんですか？」

黒沼「敵方に見つかって首を取られたそうで  
すよ」

さくら「昔の人は、いくつ体があつたても身  
がもたないわね」

黒沼「良かったら、お茶でもいかがですか？」  
みどり、さくら「ぜひ！」

○同・茶室

黒沼、静かに抹茶をたてている。みどり、さくら、正座して、神妙な顔。

さくら、みどりに小声で、

さくら「まさかお茶って、抹茶だとは思わなかったわ」

みどり、軽くなずく。体はこわばっている。

黒沼「お二人とも、ご緊張なさらずとも結構ですよ。楽にしてくださいね」

みどり、さくら、顔を赤らめる。

黒沼、たてたお茶と和菓子のみどり、さくらの前に出す。

みどり「わぁー、この和菓子、綺麗！」

さくら「本当だ。まるでイソギンチャクみたいだわ」

黒沼笑って、

黒沼「面白い方ですね。どうぞ、召し上がってください」

みどり、さくら「いただきます！」

団らんするみどりとさくらと黒沼。

黒沼「そうですか・・・。お二人は大学時代の親友だったんですね」

さくら「ええ、みどりとはなんとなく最初から気が合って。ねっ、みどり？」

みどり「ええ、私たち性格がそっくりなんですよ」

黒沼、微笑ましそうに聞いている。

○京都ウエスティンホテル外観

空に浮かび上がる高層ビル。表玄関には、ウエスティンホテルの名前。

○京都ウエスティンホテル・ロビー（夕）

みどりとさくらが、ホテルのカウンターでチェックインしている。

ホテルマンがみどりにルームキーを渡す。ルームキーは201号室と刻印されている。

○同・201号室（夕）

部屋からは京都の山々が見えている。

みどり「ねえ、さくら、夕食までは少し時間があるから、この辺を少し散歩してみない？」

さくら、顔が青白い。

さくら「ごめん。私、ちよつと疲れてるから

部屋で休んでもいい？」

みどり「さくら、大丈夫？」

さくら「少し寝てるね」

さくら、気だるそうにベッドにもぐり込む。

○同・庭園（夕）

あじさいが庭を埋め尽くしている。

その中をみどりが歩いている。

ポキッと音がする。みどり、ドキッとした顔。足元を見ると、小さな枝が靴の下で折れている。

○同・201号室（夕）

みどり、部屋をノックするが、返事がない。

みどり「寝ちゃってるのかしら。どうしよう、鍵を持ってくるの忘れちゃった・・・」

すると、ドアが開く。さくら、真っ青な顔をしている。

さくら「みどり・・・で、出たのよ・・・」

みどり「えっ？何が？」

さくらの唇が震えている。

さくら「ゆ、幽霊・・・」

みどり「何言ってるの？幽霊なんているわけ・・・」

みどりの目に部屋の中にうごめいている影が見える。

みどり「う、嘘・・・」

さくら「みどり、部屋を変えてもらおう・・・」

○同・ロビー（夕）

カウンターにみどりとさくらの姿。カ



ウンターごしにはホテルマンがいる。  
みどり「201号室ですが、ゆ、幽霊が出た  
んです」

ホテルマン「ゆ、幽霊・・・ですか？」

さくら「あの部屋、出るんですか？」

ホテルマン「さあ、そのようなことは今まで  
ありませんでした・・・」

さくら「あの・・・部屋、変えてもらえません  
か」

ホテルマン、困った顔をして、  
ホテルマン「今日はもうスイートルームしか  
空きがありませんが・・・」

みどりとさくら、顔を見合して、  
みどり、さくら「それでいいです！」

○同・スイートルーム（夕）

中は、20平米ほどあり、ベッドとソ  
ファアセットがある。豪華な装飾。

みどりとさくら、部屋の中へ入ると、

さくら「すごい出費だわ・・・」

みどり「少し遊びを抑えなきゃ」

みどり、さくら、ため息をつく。

さくら、笑って

さくら「まあ、気を取り直して夕食でも食べに行こうよ」

みどり「そうね」

みどりとさくら、夕食券を持って、部屋を出る。

○同・食堂（夕）

ビュッフェタイプの夕食。

天井には、豪華なシャンデリア。

テーブルには、ローストビーフやスー

プ、たくさん種類の食べ物と飲み物が並んでいる。

みどり「わぁー、美味しそう！」

さくら「本当だ。私、ロブスターが食べたいわ！」

みどりとさくら、食べ物を物色している。プレートのお皿には、山盛りにな

った食べ物。

みどりとさくら、テーブル席につく。

みどり「いっただっきまーす！」

さくら「うん、美味しい！」

空になったお皿。

さくら「お腹満腹！」

みどり「じゃあ、部屋戻ろうか？」

○同・スイートルーム（夕）

みどり、ふかふかのソファーに座る。

みどり「このソファー、ふかふかよ」

さくら「さすが、高いだけあるわね。この部

屋」

みどり「ねえ、さくら、お酒飲もうよ」

さくら「いいね、このワイン飲もうよ」

さくら、棚にあるワインとグラス、ス

ナックを取り出す。

みどり、さくら、お酒とスナックを楽

しんでいる。

○同・スイートルーム（夜）

みどりのいびきが聞こえている。

その横のベッドでさくらが気持ちよさ

そうに寝むっている。

みどり、額に汗をかいている。

みどり「うーん、暑い・・・」

みどり、薄目を開ける。

目の前には、落ち武者の姿が薄っすらと映る。

みどり「えっ？さ、さくら・・・」

さくら、寝返りを打つ。まだ落ち武者に、気が付かない。

みどり「さくら！」

さくら、目をぼんやり開ける。

さくら「・・・！」

さくらの目にも落ち武者の姿。

さくら、ベッドから飛び起きる。

みどりも、ベッドから飛び起きる。

みどり、さくら悲鳴を上げながら、部屋から飛び出す。